

W3 MEMORY ANALOG DELAY Designed by Howard Davis [XV-W3]

使用上の注意

製品をご使用になる前に、以下の注意書きをよく読んでください

- ◆ 電源アダプター ACアダプターは、指定のものを正しい電圧の交流電源に接続してください。ACアダプターは9VDC (直流、+10%) 出力、センター・マイナスのもののみを使用してください。動作電圧は最大でも12Vを超えないようにしてください。これ以上の電圧を加えると、機器が危険な損傷を受けたり、発火したり、その他の問題が起きたりする可能性があります。また、雷が鳴っている時には、ACアダプターをコンセントから外しておいてください。
- ◆ 接続 機器の接続や取り外しをする時には、本体や他の機材の電源は全てオフにしておいてください。これによって、他の機材の誤動作や損傷が防げます。また、本器を移動させる時には、全ての接続ケーブルや電源コードが取り外されていることを確認してください。
- ◆ 取扱い スイッチやコントロール・ノブ類には、過剰な力を加えないでください。紙や金属などの異物が本体内に入らないようにしてください。本体を落としたり、本体に衝撃や異常な圧力を加えたりしないでください。
- ◆ 清掃 本体の清掃には、乾いた清潔な布を使用してください。必要に応じて、布をほんの少しだけ湿らせてください。研磨剤入りの洗剤や洗浄用アルコール、塗料用シンナー、ワックス、溶剤、洗浄液、化学物質を染み込ませた清掃用布などは使用しないでください。
- ◆ 他の電子機器による干渉 近くにラジオやテレビなどの通信機器があると、本体が干渉を受ける場合があります。本体は、ラジオやテレビなどの通信機器から十分に離れた場所でお使いください。
- ◆ 設置場所 変形や色落ち、その他の重大なダメージを防ぐために、本体を以下のような環境では使用しないでください。
●直射日光下 ●熱源の近く ●磁界の近く ●異常な高温 ●埃や汚れの多い場所 ●異常な湿気や湿度 ●強い振動や衝撃が加わる場所

主な機能

メモリー・アナログ・ディレイは、私たちの設計技術主任ハワード・デイビスがアメリカで設計した製品です。デイビス氏は、20世紀後半に大成功を収めたエレクトロ・ハーモニクス社のデラックス・メモリー・マンを設計した、ギター・エフェクトの第一人者です。デラックス・メモリー・マンの古いモデルは、やがて使用中止になったチップ(MN3005)のピュアなアナログ・トーンのゆえに、ミュージシャンの間で人気を博しました。このモデルは究極とは言わないまでも、最高のアナログ・ディレイのひとつとされています。

XVIVEオーディオでは数年かけて、サイズやコストの点を除くあらゆる点で古い3005チップに勝るとも劣らない、新しいアナログBBDを開発しました。私たちは、独自開発のこのチップを基本にしたこのメモリー・アナログ・ディレイを発表できたことに、大きな誇りを感じています。

XVIVEオーディオのメモリー・アナログ・ディレイは、感覚的な方法で簡単に設定できる、豊かでオーガニックなトーンを持ったアナログ・ディレイです。エコーやディレイ、コーラス、ビブラートなどの効果を加えることのできる柔軟性を持つメモリー・アナログ・ディレイは、どんなエフェクト・ボードにも必須のアイテムです。小型のサイズと低価格は、購入の決断を容易にしてくれます。

特徴

特徴	利点
XVIVEオーディオ独自開発のチップ	暖かみのある、自然でオーガニックなアナログ・トーン。
ディレイタイム・コントロール	エクスプレッション・ペダル入力により、簡単な調整が可能。
最長600msecのディレイタイム	ノイズやエイリアシングによる歪みが無い。
入力インピーダンス900kΩのバッファード・バイパス方式	ピックアップへの負荷によるトーンのバッファード・バイパス方式劣化(高域の減衰)が無い。
幅広い周波数特性	ディレイタイムを長く設定しても良好な高域特性を確保。
フィードバック・コントロール	必要とあれば自己発振も可能。
入力のドライブ・ゲイン・コントロール	最小の設定にすれば、出力の大きなギター・ピックアップにも対応。ゲインは最大で20dBまで上げられるので、低い入力レベルにも対応。オーバードライブさせれば、真空管アンプのような、豊かなハーモニクスを持った歪みが得られる。
バイパス時とエフェクト・オン時の信号レベルの連動	ドライブ・ゲインの設定に関わらず、レベルの連動出力のレベルが常に揃う
複雑で豊かなモジュレーション	他のディレイ・ペダルとは違い、メモリー・アナログ・ディレイのモジュレーションはビブラート(周波数変調)のみではなく、位相の合ったトレモロ(音量変調)も伴うので、深いロータリー・エフェクトが得られる。
モジュレーションの速さと深さが調節可能	両者が独立可変で、より豊かなトーン設定が可能。
高度な技術によるフィルターおよびノイズ低減回路	ディレイタイムを長くしても、常に低減回路最良のSN比を確保。
真のステレオ出力	

接続について

9V DCセンター・マイナスのアダプターを電源入力端子、ギターなどの楽器をINの端子、アンプをOUTの端子にそれぞれ接続します。電源の極性が合っていない場合、ペダルは動作しませんが、壊れることはありません。ステレオ動作のために2台目のアンプを使用する場合は、STEREOの端子に接続します。2台のアンプの音量を揃え、1～2mあるいはステージの両側に離して設置すると、最良のステレオ効果が得られます。エクスプレッション・ペダルを接続する場合には、20kΩのポットを使用した標準的なものを使用します。

出力の高いピックアップやラインレベルの機器を接続する場合は、DRIVEコントロールは低めに設定するのが良いでしょう。エフェクターがオーバードライブして歪みが過剰になるまでこのコントロールを上げてから、求める音質が最大音量で得られるところまで戻すようにして調節します。

次に、MODULATIONおよびDEPTHを絞りきるか、あるいはMODULATIONフットスイッチをオフにして、好みのエコー音を得られるようにDELAYとBLEND、FEEDBACKを調節します。

モジュレーションが必要な場合は、MODULATIONスイッチをオンにして、好みの効果が得られるようにDEPTHとSPEEDのコントロールを調節します。MODULATIONフットスイッチを使えば、コントロールの設定を変えずにモジュレーションのオン／オフが切り替えられます。

コーラス・エフェクトの作り方

まず、ドライ音とディレイ音の音量が等しくなるようにBLENDコントロールを調節します。DELAYはごく短く、DEPTHは最大、SPEEDは最低にそれぞれ設定します。そして、ピッチの過剰な変動なしに最良のコーラス効果が得られるところまで、少しずつSPEEDを上げていきます。FEEDBACKを上げると、効果が強調されます。コーラス効果は、ステレオ・システムを使用した時に最大の効果を発揮します。

ロータリー・エフェクトの作り方

DELAYをごく短く、BLENDをディレイ音のみ(時計方向に回し切る)に設定してから、好みの効果が得られるようにDEPTHとSPEEDを調節します。

リバーブ・エフェクトの作り方

DELAYを短め、DEPTHは絞りきるか、ごく低い値、BLENDはドライ音とディレイ音が同じぐらいになるように設定します。FEEDBACKは、ディレイ音が何度も繰り返されながら減衰するように、高めに設定します。自己発振が起こる寸前の状態に設定すると、“バスルーム・リバーブ”が得られ、ディレイとモジュレーションの設定で効果に変化が付けられます。コーラスと同様、リバーブもステレオ・システムを使用した時により効果を発揮します。

仕様

電源：12V電源アダプター

供給電圧：9V電源出力7系統および18V電源出力1系統を独立して供給

供給電流：9V出力はそれぞれ最大250mA。ただし、最大供給電流は電源アダプターの容量に依存

寸法：120mm(長さ) X 60mm(高さ) X 110mm(幅)

重量：375g